

きずな

第21号 平成23年3月15日発行

今月の顔



まちサポお助け隊の
隊長 杉本義光さん

季美の森在住

日本航空の整備士の仕事を退職されて、自分にも何か助ける事が出来るのではと、お助け隊のメンバーに参加。そこでその裁量を見込まれ隊長に。コーディネーターも兼務でお助け隊のメンバーをリードしてくださっています。温厚な性格から、お年寄りからも好かれています。また、今年に入って始まった、マンツーマンでのパソコン教室も人気で、こちらも大半がお年寄りなのですが、同じ事を何度聞かれてもいやな顔を一つせず、丁寧に教えてくださっています。

まちサポの活動も3年目に入ります。

まちづくりサポートセンターは、市民活動を進める町民・NPO・ボランティア団体・企業の皆さんが相互に交流しあえる活動の拠点として、平成二十一年四月、たくさんの方にお集まりいただき開所しました。皆様のおかげで3年目を迎えます。多くの方に支えていただき、ここまで来ることができました。自転車操業での運営ではありますが、これからもよろしくお願いたします。

これまで「まちサポから生まれた事業は、「まちサポショップ」を始め、「お助け隊」「まちづくり未来塾」

まちサポ主体で 地域活性化支援事業実施

22年度県とNPOクラブの協働で行われた、まちみがき人材パワーアップセミナーの中で生まれた、4グループの事業は継続すると町の活性化に繋がることから、来年度はまちサポが主体の地域活性化支援事業として活動する事にしました。その事業とは、

- ①つまみ食いウォーク
- ②町の情報あつまれ！たまりば事業
- ③大網白里まちあるきお助けマップ
- ④まちの「特産品」を売りだそう！

の4つです。

“地域の防犯あなたが主役”

後藤 正義

大網白里防犯組合（組合長金坂町長）大網支部では、3月6日「平成22年度第2回防犯指導員連絡会議」を開催した。大網支部管轄の各区長・防犯指導員が出席し、情報交換や講習会を行った。

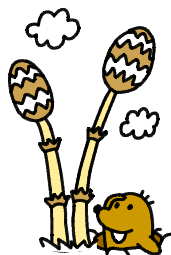
今回は、金坂新組合長の激励の挨拶に始まり、支部の活動報告や各地区の実情報告等続き、①東金警察署仲野生活安全課長から、大網白里町に重点を置いた犯罪の傾向と対応②防犯組合の事務局である生活環境課石井班長からは、青色回転灯車（青パト）活用について③今年度開設された東金警察署移動交番からは、瓜生警部補から活動の実態と3月から大網病院でも開設するなど住民に密着した前向きな取り組みについての説明を受けた。

“自分達の地域は

自分達で守る”

犯罪抑止に向け新たな決意を胸に閉会した。

＜地域住民が一体となり
犯罪のない安心な街を
つくりましょう！



ご支援・ご協力をお願いします。

「オープンガーデン大網白里」の4つ。そして来年度は新たに町活性化の四事業を加え、町を元気づけるために、いろいろな所と連携を図っていきたいと考えております。また、「さんさん市」のサポートも引き続き行っていきます。

まちサポでは、活動の支援をしてくださる企業の方を探しています。



大網白里まちづくりサポートセンター

第4回 子育てフォーラム
みんなで子育てしませんか
 PART 2

三月十三日、中部コミュニティセンターにおいて、第4回子育てフォーラム『みんなで子育てしませんかパート2』が開催されました。

大網白里子育て支援ネットワーク協議会では、四年前より子育てフォーラムを開催し、地域のみならず子育てを考える機会を作っています。第1回は服部幸應氏の食育の講演会、第3回は、大畑誠也氏の「今どきの子育ての極意」と題して、朝ご飯を食べるとやる気が出る、特に「箸の立つ味噌汁を食べよう」を合い言葉になるほどの力強い講演を聴くことが出来ました。第2回は「みんなで子育てしませんか」と題してみんなの悩みを話そうと、グループトークを行いました。今回は、そのパート2ということで年齢別に子育ての悩みを話し合おうと開催しました。

この日は東北関東大震災から二日目となり開催するかどうか迷ったのですが、少人数でも集まってくださった方たちと、有意義な話し合いをする事が出来ました。災害の直後だったので、災害の時の学校での子ども引き取りのこと、子どものしかり方、父親と子どもとの関わり方、子育ての悩みを心から話し合える人に出会えるかなど、ざっくばらんに話す事が出来ました。

これらの話から、これから子育てネットでの課題がいくつか見えて来ました。これからこの課題を解決出来るように活動していきたいと考えています。興味のある方はご一緒に考えましょう。



フォーラムの様子

子育ての悩み
 ちょっといい話。先日の地震の後、中央公民館にリュックを背負って非難してきた小学生の兄弟がいたそうです。両親は共働き、停電していて情報がないから、とにかく自分の荷物を用意して避難場所に行こうと、子どもたちだけで判断したそうです。これは、日頃から親子で災害の時にどうすべきか、きちんと話し合っていた証拠です。この親子のことをすばらしいと思いました。各家庭でどう避難するのか、避難場所のこと、持ち物のこと、ちゃんと話し合っていますか？この機会に今一度、確認しあう必要があるのではないのでしょうか。



シェイクハンズ

活動紹介

シェイクハンズは、「ハンディキャップを持つ子ども地域社会の一員として一緒に過ごしたい」との想いで立ち上げた団体です。現在、エコキャップ活動を中心とした地域交流活動を行っています。この活動は、ペットボトルキャップのリサイクル対価を、NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)に寄付、JCVが世界の子どもにワクチンを贈る

キャップに付いているシールを剥がしたり、清涼飲料以外のキャップは取り除きます。ご家庭で集めるときにちょっと気にしてくれると助かる作業です。

ボランティア活動です。キャップ800個でポリオワクチン1人分(20円)になります。近隣の小・中学校を始め地域の皆さんにご協力をいただき、2010年12月末までに、4,360,000個回収し、リサイクル対価109,000円(ポリオワクチン5,450人分)をJCVに寄付することができました。

エコキャップ活動には、回収活動の他、キャップに貼られたシールをはがしたり、異物を取り除くなどの分別もあります。毎月第4月曜日の午前中に、まちサポをお借りし、楽しくおしゃべりしながら活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

代表 平野由美子



店頭コンサートを従業員の方も楽しみました。

2月27日は、主婦の店大網店で「ゆかいくんまつり」を開催しました。日ごろ、てんぷら油を持って来ていただいた住民の方々に感謝の気持ちを含めて「ゆかいくん風船」と「じょうご」を配布しました。若いミュージシャンの生ライブをプレゼントしました。出演は、ありっば、はんぞう、Kohei の3組、多くの住民の方々に喜んでいただきました。

7ヶ月で延べ1200人から、1431リットルの油を集めることができました。これは1100リットルのBDFを精製し、CO2に換算すると約2.3トンのCO2を削減したことになります。

千葉県地域活性化プラットフォーム事業は2月末に終了しますが、3月以降も引き続き主婦の店に「ゆかいくん」を設置することになりました。また、採択された団体の農業を楽しむ会が生産する農作物を主婦の店に陳列することを了解していただきました。

住民が持ってきたてんぷら油からバイオディーゼル燃料(BDF)が精製され、農業を楽しむ会がBDFをトラクターの燃料として使用し、生産した農作物を住民が主婦の店で購入することが出来るようになります。ここに、てんぷら油を持ってくれば農作物を購入できるという図式が見事に完成しました。

これからも、地球温暖化防止、CO2削減のために住民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

農業を楽しむ会
世話人 大野英雄

平成二十二年 千葉県地域活性化プラットフォーム事業
一〇〇年後のふるさとへの贈り物
水と緑ときれいな空気と心地よい空間を目指して

2年にわたり活動してきた本事業も、今年度の活動報告会を持って終了しました。今年度受諾された2団体からの感想です。

エコパーク大網白里子ども村

建設から上総掘り開始へ

「上総掘り」が出来るエコパーク子ども村は昨年に引き続き、千葉県地域活性化プラットフォーム事業に採択され、助成金を受けることが出来実現しました。この二年間は「建設・運営事業」から「上総掘りから拓げる`環境を守る子どもを育成`事業」へ、継続発展させることができました。今春からは町内各学校と連携し体験活動を開始していけるように計画しています。100年後のふるさとへ、子ども達に未来を託すことが出来るように、私たちは子ども村を中心に地域住民の皆さんと、町内の各学校関係者と共に創りだしていきたいと思ひます。

この二年間で運営体制を作り、子ども達の活動を見守って来ました。また自然環境に関するイベント、青空パーカッションなど多くの方々が参加してくれました。休耕地を利用してサツマイモを作り、イベントで販売もしました。上総掘りを建設するにあたって「井戸掘り隊」を結成、たくさんの方に手伝って頂き、ひご車を組み立て、やぐら完成時の感動を皆で共有しました。

この二年間の活動が実を結び、地域に認知されてきたことを実感します。皆様のご協力に感謝します。子ども達の育成、地域に根ざした「あそび場」が自然環境を保全する拠点として拓がっていけることを願ひ、これからも活動を続けていきます。

最後に、子ども村を建設する事が出来たことを地主様にお礼を申し上げたいと思ひます。

子ども村実行委員長 安岡 律子

尚、引き続き、子ども村を支えて下さる方を募集しています。

毎週土曜日10時~15時 開村
問い合わせは まちサポまで(担当鶴澤)

考察 「協働のまちづくり.1」

まちサポ理事 三澤清隆

まちの第5次総合計画・基本構想がまとめられた。注目するのは「まちづくり」を施策の大綱におき、住民と行政が協働力により「まちづくり」を推進すると特化し定義したことです。

内容において「住民自治」を重く見た背景には、国の「地域主権改革推進一括法」に対応した「まちづくり」があると思います。また、基礎自治体の自主性・自立性ととも「地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組む」ことを必要とする考え方があります。

今日、「地方分権改革」自治法によって、地方公共団体である基礎自治体の自主性・自立性がますます高められています。つまり、「地域」を地方自治の場・主体にして、自らの判断と責任において「まちづくり」を「住民協働」によって、「地域」の自治（広い意味でのまちづくり）・地域づくりを、住民と行政が協働の成果をもって活性化することに他なりません。

自治・地域づくりは「住民自治」であり、住民参加・「住民と行政による協働のまちづくり」の推進を包摂¹するものです。

ところで前々から混沌として気になっていたことに、「町民」と「住民」のよび方ことばがあります。一般に「町民」とよぶ場合は、町自治体の住民だから概念的にも「町民」とよんで、行政上のよび名として使われていると思います。

地方自治の中では、国民としての主体を「住民」と規定するところから、「住民協働」、「住民参加」と称する場合は、まちづくりに参加する主体が住民だという意味になります。

ちなみに「住民」は、一般の地方自治（地域自治）ことばとして使われ、「地域住民」というと、地域内に居住する生活者住民を念頭に置いて用いられ使われるが、地方自治法においても「住民」は、「市区町村の区域内に住所を有する者で、住民票のとれる日本国民と居住外国人、さらに主たる事務所を持つ法人・団体住民を含んでいる」としているの、「住民参加のまちづくり」というと、これら総ての人を包含対象にして「まちづくり」を推進していくことを意味します。

計画停電実行中の開所時間の変更

2011年3月11日に発生いたしました東北地方太平洋沖地震の被害に遭われた皆様、関係者がおいでの方には、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。当所も節電に協力しております。ご利用の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。

開所時間 10時～16時

但し、会議等予約時間には対応いたします。

1 包摂➤ある概念が、より一般的な概念に包括される従属関係の意で、まちの第4次総合計画にある「住民の参画と共存できるまちを創る」に基づいて組織された「住民と行政の協働によるまちづくり推進懇談会」の提言書から、「協働のまちづくり推進計画」の策定に至る経緯など、まちづくりの推進を基礎自治体の地域づくり「住民自治」としてとらえる。

くもんの慢の発明商品。是非使ってみて



くさん入るし、竿の上からみたりするの、差し込むだけ

の商品です。エプロンのポケットにもた

洗濯ばさみは古くなると使うときポロツと割れてしまいう

「もう！」と思ったことありませんか？何個も続くといや

まちサポショップ 今月のおすすめ

洗濯ばさみ

